

大東世語備考

服部文庫

イ 17

2012

5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2

417
2012

德行



坂真州當道在任云

藤三守早入大學云

山田古嗣幼云

良臣相安生皆貴寵云

藤朝台及藤超遷云

注 良繩丁亥 又曰

群偷夜入安養尼云

更部郎省中暴死云

藤公道隆然云

117 2225

示觀補東方古少當

賢為行祭都華之俗

平治之亂也高士

鍾倉公出通西

波多成道

平泰時其父

泰時當誦鍾倉

平定時死後

平貞時隱身

2

言語

善相公身犯網言

藤白執第

原公忠敏捷

註食分高味

天曆政以和平

藤朝成為近尉

黃門藤乃輔

有國以名語

江以言自云

實資自少稱云

語園

九月十三日
余飲序

或難新月

伊特齋宮

新羅國使

高陽院齋馬

管廟祭用管

源納言顯基

白河帝吾父王也

成通一万里遠

藤匠仰伏是

注
白河鄉

徒熱羊也

三

三

3

注
後伏莊賞雪子

禪林修正法藏壞

為師執主初奠夏

江帥非理貸船

兼町麩馬不端也互向何方

基後後和歌打競

法盛強門地

注
初白河帝

妙音公韓康獨往之樓

法然寂力念

大石講師四卷止觀
平氏波厲曰病業耳
鎌倉幕士且會列
友為亦獨木橋
貞應宮內直廬前楓樹
或人患四維禱禱易壞
隱者望月歎
傳圖尔友為牛一耕
病願其見水矣

法顯晉扇

注佛國記

章田者遷怒刈人木
衆人會於及一秘事
久和中傳國尔至南朝
玄慧酒三進
良基百術不如一清
一条云先人入後人退
平惟仲請狀
長曆帝是庶官衣裡

或曰

政事

○

源俊明臆裁

差為隆禧奏事尽奏

承保帝夢頭賴

春時聽政

音砥夜涉水

注為小条氏云

文學

弘仁時白氏文集云

弘仁兩和之句也望子白氏之句曰也三

注南和冲地望為到夜使

隱君子乃何士魁

5

宗統傳應試卷第

延喜者於江言人兩音詩

都良香氣霽一聯

橘直幹作申文

管三品片柳論力詩

江澄抄卷之

天曆年文時論詩

天曆時延光奏雅材為而

橘正通赴高麗

一条帝内宮中書王云

正通初冬同賦
紅葉高麗而
序

善波孫遠雲子也

師任為太史

藤更下郭光五途

黃門顯季初學詩

江成衡江家祕曆監

宇治公建平等院

能因節信情相得

絕

角夜

佛日記

能因白河詠

みよととくま上たつりしと秋風るしくかたのり

6

承保帝幸西河

一云師任不權來三丹

或為志學

俊憲作內堂序

法入秋集通憲宅

和直綱禪人罪

註時法隆寺

北野官廟於時貴下車

源俊明宮造佛像

源雅實有大體

真家衝，櫛形形露

方山

朝典四史
孫二石

承保帝建法勝寺

寬治時夜誕奏樂

西川初子也与実定

平相玉将率兵幽上皇

法盛遷都福原

○云及宗房

於朝上洛保之と皇深欲令悅

源近尉弟經亡京

和田之弟也右弼有地

○法盛然北条也

寬和時道長冒闇往大極殿

雅良

永近登作日大極殿有血髑髏

源家法盛之弟也重公也此為主也

法盛系部之盛

その上平記也之 法國 隆方了 法盛也

友実子意方思切成

伊同敏指子保回三司

弟家微服夜至人家

○弟家常行

公重方怒内府家人

令人用光西使

割王誓

範清所撫愛女病甚篤

法印靜賢評云

平內府重盛詣皇太后宮

色尉廳行事

經管龜山宮

久住寺中紀其并名

五并

秀了聚強旅在東

時門在京候吏部王敦家

三磨之排口在歷寺行

在秀才學亦必廣傳

識

朗詠
世傳
文選孫綽天台
山賦

保昌遇平致賴

四雄

源左府雅信云

平珍材為介讚州

承保中詔匡房搜朗詠集余句

弟家東征十二年云前大平記

孫子

九層塔修成云

妙音公論白拍子

世傳云

天台明雲兵伏之厄

安親占云

松公基房取秦兼國

貴譽

石橋之敗

藤春律不常世利

仁明帝調練五石

長谷雄年十八

朝綱錢裴璆序

三統理平

三品為有章攢

夾部王敦泛舟河陽

香之子在中

延長以信序

幽人釣魚

山之王... 延長以信序... 香之子在中... 幽人釣魚

雙白珩

聯賴宗善雅歌

光賴為職事官

僧琳賢心匪風流

通憲不耻不知

家隆從俊成學

淑望目先達和歌之体 古今集序

甕有玄象牧馬信美信明優劣

忠文東征 前大平記

道風朝綱爭書

品藻

任迹野迹

具平

中書王學文慶太史亦史補

中書王學文慶太史亦史補

正曆中或向相者

御堂公建法成寺

實行雅定同日拜相

江帥房詩敵云

同人在列文學云

同人在列文學云

皇向名園之勝

10

規箴

以之躬恒或向判後頭

重衝波唐千壽彈琴平家物語

文應宮侍慧俊相夸

親道昌天長中云

實平時斷屠明年

正喜中管公力友和

天曆帝留意政事

平隆良是親遇伊周

長曆帝不豫避位

小治長曆帝大斬

寛治帝省賢奏事 并乙夜

源大將軍誠武人過奢

兼家夢相坂關值雪

道長營東第

藤賢聞有圖暗打已者

上東后帳内大生子

上東后臨生太子誰產

院二即位上東后賢宮中嘆

捕悟

不之也。二条冷名も流切紙とてP所へて付し
 又第付極く今穿極子さく言にたあつたの
 流のみを秋のこころにPをこし世万流わして
 左巻ぬんか
 由は二道のまあわねむのりて世待あまのこ
 れから初めしとまれあつたれいとれぬ事この
 月二条冷名兼家の白紙めして二条冷名もあまの
 骨もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの
 二条冷名もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの
 夏もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの
 こゝろもあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの
 了りもあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの
 二条冷名もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの骨もあまの

10

抄

ヨシキルぬ山の中世に於ては其のつてをけりぬ
たれとて其の多きをいふに其の場とてなれ其の地とて
ありしにぬあつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
れぬまじりぬとていふにぬあつたしとていふにぬ
よこをとりしつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
んをとりしつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
れぬぬの地とていふにぬあつたしとていふにぬ
するにぬあつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
たれぬあつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
よこをとりしつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ

是言付しつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ
物にぬあつたしとていふにぬあつたしとていふにぬ